

# 東日本 APM ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第547号 2024. 7/3

一般社団法人 東日本プラスチック製品工業協会  
東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321  
URL: <http://www.ejp.or.jp> FAX 03(3541)4324  
発行人 笹岡 健治

## 目 次

第56回通常総会が開催されました…………… 1	火力発電の二酸化炭素排出削減…………… 7
事務局レポート…………… 4	

## 第 56 回通常総会が開催されました

～プラスチック業界の地位向上と情報の発信～



住田会長挨拶

令和6年5月16日（木）薫風の中、上野精養軒において当工業協会の第56回通常総会が開催されました。当日は、正会員、賛助会員の皆様はじめ大勢のご来賓、関連業界団体の皆様方にご出席いただきました。

議案は以下の通りでした。

- |       |       |                 |
|-------|-------|-----------------|
| 第1号議案 | 令和5年度 | 事業報告承認の件        |
| 第2号議案 | 令和5年度 | 決算報告承認の件        |
| 第3号議案 | 令和6年度 | 事業計画（案）<br>審議の件 |
| 第4号議案 | 令和6年度 | 収支予算（案）         |

審議の件

第5号議案 役員改選の件

上記議案は、全て原案通り承認され、無事終了いたしました。

令和6年度の事業計画では、重点事業として、第一に「SDGsを意識した事業の推進」を掲げ、①カーボンニュートラルを実現するための仕組みづくり、②海洋プラスチック問題への真摯な取り組み、③技能検定・能力開発事業の推進による質の高い教育に取り組むこととしました。その他、既存会員へのサービスの充実や各種支援策に関する情報収集・提供にも努めてまいります。

総会後に開催された懇親会において、住田会長は以下のご挨拶を申し上げます。



総会の様子

『本日はお忙しい中、当協会の総会並びに懇親会に関東経済産業局産業部部長 小澤元樹様、製造産業課長 麻生様はじめ業界関連団体及び会員各位皆様方の大勢の出席を賜り心より感謝と御礼を申し上げます。

みずほリサーチ&テクノロジーが発表した「サービス物価2%の賞味期限」というレポートの中に出てきた「岩盤サービス物価」という言葉、皆さんはご存知でしょうか？サービス価格が上昇率ゼロ%前後に張り付いた品目を「岩盤品目」と呼びます。すなわち、今の物価上昇時に価格が上がっていない品目を言います。

例えば、民営家賃・理髪料・車庫代・マッサージ料金・人間ドックの受診料・私立の授業料・獣医代・ゴルフ練習場代などが挙げられます。植木職手間代、大工手間代も該当します。皆さん、思い当たる節もあるのではないのでしょうか？

現在の一般サービス価格上昇の主因となっている外食、宿泊料、住居工事などについては、原材料コスト上昇がこれらの価格上昇を促してきたことによるものですが、岩盤品目を動かすには原材料コストの上昇だけでは足りないと言えます。これらの岩盤品目の価格を上昇させる事を、レポートでは岩盤を突破する方法と言って分析しています。

「岩盤」価格に有意に影響する変数を確認したところ「名目賃金の5年前比」が多くの岩盤品目で選ばれています。これは「賃金の持続的上昇」が最重要であることが示唆されており、賃金上昇が1~2年続くだけでは岩盤突破には不十分で、2025年以降も高水準の賃上げが継続することが岩盤突破の必要条件と書かれています。

プラスチック成形の加工賃も体系的には岩盤品目に非常に似ていると思われそうですが、このまま賃金だけが上昇し本業の値上げが追従しないと、業界が弱体化してしまいます。

現在のプラスチック業界を取り巻く環境は非常に厳しく、次の5年はなかなか読めないと思いますが、プラスチックが無くては生活が成り立たないものです。もっとプラスチック成形業の地位を向上させ、会員の皆様へ有益な情報を発信し、皆様の助けになることも協



挨拶する住田会長

会の重要な役目と考えており取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、皆様方の今後のますますの御活躍を祈念いたしまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。』

ご来賓からは、代表して関東経済産業局産業部部長の小澤元樹様より、お祝いと激励さらに令和6年度施策等についてご挨拶をいただきました。

『只今、御紹介をいただきました経済産業省 関東経済産業局 産業部部長の小澤でございます。本日は、東日本プラスチック製品工業協会通常総会にお招きいただき、誠にありがとうございます。また、本日御列席の皆様方におかれましては、日頃より、経済産業行政に多大なる御理解と御協力をいただきまして、重ねて御礼申し上げます。

はじめに、東日本プラスチック製品工業会の皆様におかれましては、射出成形やブロー成形を始めとしたプラスチック成形技術の高度化と品質向上に日夜取り組んでおられますこと、心より敬意を表します。皆様が長年培ってこられた技術や技能は、日用品・雑貨、容器・包装、自動車・輸送機械、電気電子機器、医療機器等の幅広い分野において多大な貢献をされており、我が国製造業を支える重要な基盤技術の一翼を担っているものと認識しております。

さて、日本経済は、過去最高水準の国内投資を見通し、高水準の賃上げの実現など、潮目の変化が生じています。ただ、30年間続いた「コストカット型」の縮み志向は2年間で変えられるものではなく、ここからが正念場です。積極的な産業政策を展開し、継続することで、「投資も賃金も物価も伸びる成長型経済」に転換していくことが重要です。

このような認識の下、経済産業省としても、賃金や成長の源泉となる社会課題解決型の国内投資を後押しするべく、あらゆる面で施策を講じております。民間企業の予見性を高め、投資を引き出すことを主眼とした「経済産業政策の新機軸」に継続的に取り組んでまいります。

特に日本の雇用の約7割を占める中小企業が、売上や収益を拡大し、成長発展することが大切です。中小企業がしっかりと賃上げを行い、人材を確保できる環境を整備するため、価格転嫁や生産性向上に取り組んでまいります。

価格転嫁対策としては、「価格交渉促進月間」等の取組を粘り強く続けていくことで、中小企業にとって価格交渉しやすい環境を引き続き整備

し、サプライチェーンの隅々まで価格転嫁を浸透させてまいります。特に労務費は、「賃上げしたければ、経営努力で効率化し、値上げ費用を捻出すべき」という、従来の取引慣行そのものを変えていく必要があります。本年3月に、下請振興法に基づく「振興基準」が改正され、『適切な取引対価の決定にあたって「労務費転嫁の指針」に沿った行動を適切に取る』こと、『原材料費やエネルギーコストの高騰があった場合には、適切なコスト増加分の全額転嫁を目指すものとする』ことが追記されました。今後、このような取引適正化を巡る動きがますます活発化していくと考えられますので、適宜情報共有させていただくとともに、皆様方のお声も聞かせていただきたいと思います。

また、中小企業向けの賃上げ促進税制について、前例のない長期となる5年間の繰越措置の創設により、赤字でも賃上げに挑戦する中小企業の後押しとなるように抜本強化しました。

加えて、生産性向上のため、カタログから選ぶような簡易で即効性のある省力化投資や、新商品・サービスの開発に向けた設備投資等の支援を令和5年度補正予算にて措置したところです。

こうした取組が、厳しい環境にある中小企業・小規模事業者にしっかり届くよう、全国47都道府県に設置している「よろず支援拠点」等における経営支援の中でも、丁寧サポートしてまいります。

被災地域における東日本大震災からの本格的な復興を図るため、経済産業省では「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」を立ち上げ、約1,100の企業・団体にご参加いただいております。弊局としても、「三陸・常磐もの」の食材を使ったお弁当の購入や自治体への営業、民間企業と連携した販売促進などの取り組みを実施しております。三陸・常磐地域の海産物の美味しさを知っていた

だき、日常的に海の幸を食べるきっかけにさせていただくと幸いです。

大阪・関西万博も開幕まで1年を切りましたが、会期前の今からでも参加・活用いただける枠組みが用意されています。皆様日々取り組まれている社会課題の解決やSDGsの達成に向けた活動など万博を機にアピールされたい取組や、新たに挑戦したいことがありましたら、当局までお問い合わせください。

「物流の2024年問題」には荷主である皆様のご協力が不可欠です。昨年6月にガイドラインを策定しましたが、荷待ちや荷役時間の短縮化、物流への負担となる商慣行の是正、運送契約の適正化等について取り組んでいただくようお願い申し上げます。



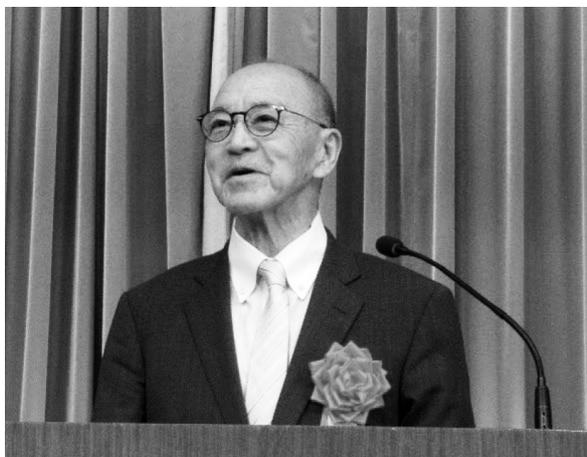
来賓関東経済局・小澤部長

結びに、東日本プラスチック製品工業協会の益々のご発展と、本日ご臨席の皆様のご多幸と御健勝を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。』

続いて、全日本プラスチック製品工業連合会会長の大野泰昭様の乾杯のご発声により祝宴が始まりました。

会場では、参加いただいた多くのご来賓、会員の皆様方による情報交換の輪が出来ました。また、懇親会の最後には今回の総会で退任となる八尋専務理事の挨拶がありました。

18時20分、原田裕司副会長の中締め挨拶と一本締めでお開きとなりました。



大野全日本会長



八尋専務理事



中締め・原田副会長

## 事務局レポート

### 1. 第56回 通常総会議事録

1. 日時 令和6年5月16日（木）  
16時～16時50分
2. 場所 上野精養軒 3階 桜の間  
東京都台東区上野公園4-58  
電話03-3821-2181

### 3. 出席者

出席正会員 103名（うち委任状67名）  
正会員総数 164名

定刻、山下副会長の司会により、一般社団法人東日本プラスチック製品工業協会第56回通常総会の開会が宣言された。住田会長の挨拶に続いて、司会より、本総会出席会員の定足数は過半数を超えており、一般社団法人定款第18条の規定により本会が有効に成立している旨の報告がなされた。次に、定款第16条の規定により会長が本総会の議長の任に当たる旨を説明し、異議なく全会一致で承認された後、住田会長が議長席に就いた。

### 4. 議事録署名人

議長より定款第20条の規程により、議事録には議長の記名押印のみで済むため、他の署名人の選出はない旨を説明し、了承された。

### 5. 議事

- 第1号議案 令和5年度事業報告承認の件  
第2号議案 令和5年度決算報告承認の件

議長より、第1号、第2号議案は関連があることから一括して説明をお願いしたい旨を議場に諮り、了承を得た。

上村副会長より、総会資料に基づいて、会員の状況ならびに会議の開催、個別事業について及び支部会開催状況等の報告をし、さらに令和5年度の貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書等について説明をした。

続いて、野邊弘一郎 監事が以下のとおり監査意見を述べた。

「去る5月13日、当工業協会事務所において、令和5年度の事業報告、計算書類、これら附属明細書について監査を行いました。監査の結果

につきましては、法令及び定款に従い、計算書類並びに財産目録等が適正に処理がなされている」旨。

議長より、第1号、2号議案の承認可否について、議場に諮ったところ異議なく全会一致で承認された。

第3号議案 令和6年度事業計画(案)審議の件  
第4号議案 令和6年度収支予算(案)審議の件  
議長は、第3号、第4号議案について、関連があることから一括して説明をお願いする旨の了承を得た後、上村副会長が以下の通り説明した。

令和6年度事業計画(案)については、「一昨年4月に『プラスチック資源循環促進法』が施行されたこともあり、今年度も令和5年度に引き続き重点事業としてSDGs(持続可能な開発目標)を意識した事業の推進を冒頭に掲げた。今後ますます私たちプラスチック業界も環境に配慮しながら対応していく必要がある。また、こうした状況を乗り切るため、官公庁他から有効な情報を収集し、会員の皆様に発信するとともに、皆様の様々なご意見を行政に的確に伝えていくことが重要であると考えている。令和6年度もこうした積極的な取組みを図るべく事業計画を策定した。」旨の説明が行われた。

続いて、令和6年度収支予算案の事業総額、99,561,871円の内訳について総会資料に基づき一般会計の大科目毎に説明が行われた。また、科目の詳細と部会別会計(部会・委員会)については、ご一読願うことで了承を得た。

議長より、第3号、第4号議案の可否を議場に諮ったところ、原案どおり全会一致で承認された。

### 第5号議案 役員改選の件

議長より以下説明した。

本日の通常総会終了をもって任期満了となる現役員の改選について、本総会に上程するもの。

下記の新役員候補者を発表し、その選任について議場に諮ったところ、異議なく全会一致で承認された。

理事 橋本盛介  
不二プラスチック株式会社  
々 大野泰昭  
株式会社石黒製作所  
々 住田嘉久  
日ノ出樹脂工業株式会社  
々 野坂晃司  
大栄株式会社  
々 村口公浩  
株式会社高福化学  
々 秋野勝彦  
株式会社イガラシコーカ  
々 嶋田修二  
浅間合成株式会社  
々 石川忠彦  
天昇電気工業株式会社  
々 山下慎一郎  
山下電気株式会社  
々 平塚隆文  
株式会社三光社  
々 伊藤宏使  
株式会社ヒロプラス  
々 上村俊彦  
かみむら化学株式会社  
々 曾我部大  
株式会社新上  
々 原田裕司  
大塚産業株式会社  
々 植田好司  
株式会社植田電器製作所  
々 河合清美  
河合電子工業株式会社  
々 小菅恵美子  
株式会社荒川樹脂  
々 佐藤昭  
株式会社サトーゴーセー  
々 滝口裕  
株式会社滝口製作所  
々 福田晴通  
旭モールディング株式会社  
々 関根忠  
株式会社ミクロ精工  
々 早川聖人  
株式会社日新化成

々 肥後武展  
株式会社リーデンス  
々 平田照雅  
平田精工ジャパン株式会社  
々 内山三男  
長野県プラスチック工業会  
々 長谷川矩之  
群馬県プラスチック工業振興協会  
々 大里光男  
茨城県プラスチック振興会  
々 大山剛  
新潟県プラスチック工業振興会  
々 池添亮  
栃木県プラスチック工業振興会  
々 佐藤正幸  
福島県プラスチック工業会  
々 笹岡健治  
一般社団法人東日本プラスチック製品工業協会  
監事 長島勝敏  
株式会社千葉工業所  
々 谷和雄  
有限会社大里化工  
々 野邊弘一郎  
エンゼル産業株式会社

議長から、別室において、新役員による新執行部を選出するための理事会を開催し、この場で報告する旨、宣された。

16時45分、理事会が終了し、司会の山下副会長から、第411回理事会を開いたところ、以下の新執行部（三役）が決まった旨が報告された。

会 長： 住田 嘉久 氏  
副 会 長： 上村 俊彦 氏  
々 肥後 武展 氏  
々 原田 裕司 氏  
々 山下慎一郎 氏  
専務理事： 笹岡 健治 氏

住田嘉久会長からは、新執行部として、微力ですが精一杯尽くしたく何卒よろしく御協力をお願いしたい旨の挨拶がなされた。

16時50分、議長は、以上をもって第56回の通常総会の議案が終了したことを宣した。

## 2. 第410回 理事会議事録

1. 日 時 令和6年5月16日（木）  
15時～15時40分
2. 場 所 上野精養軒 3階「菊の間」

東京都台東区上野公園 4-58  
電話03-3821-2181

5月10日 第16回通常総会  
エッサム神田ホール 1号館

### 3. 出席者

住田 嘉久 肥後 武展 上村 俊彦  
山下 慎一郎 大野 泰昭 野坂 晃司  
嶋田 修二 平塚 隆文 伊藤 宏使  
曾我部 大 植田 好司 河合 清美  
佐藤 昭 滝口 裕 福田 晴通  
秋野 勝彦 小菅恵美子 関根 忠  
平田 照雅 内山 三男 武田 久徳  
八尋 一恭

以上出席理事22名(理事総数35名)

野邊弘一郎 谷 和雄

以上監事2名

大里 光男(オブザーバー)、笹岡 健治(事務局)

### 4. 住田会長ご挨拶

本日はお忙しいところ第410回の理事会にお集まりいただき有難うございます。本日は、この後会員の皆様が集まっての総会と懇親会になります。長丁場となりますが、本日も円滑な進行をお願いしまして簡単ですが、ご挨拶に代えさせていただきます。

### 5. 専務理事より定数の報告

事務局より理事数35名のうち出席理事は22名であり、定款第33条の規程により過半数の理事の出席があり、本理事会が有効に成立している旨の報告がなされた。

### 6. 議長選出

定款第30条の規程により会長が議長に選出された。

### 7. 議事録署名人

議長は、定款第34条により、同人と出席の野邊監事・谷監事に記名捺印をお願いし、了承された。

### 8. 議 事

#### 議題1. 経過報告(前回理事会以降の主要行事)

以下専務理事から説明を行った。

##### (1) 役員会等の開催

4月18日 第409回理事会

エッサム神田ホール 2号館

##### (2) 部会・委員会の開催

###### ①能力開発推進委員会

4月18, 19, 20, 21, 27日 新入社員教育講座  
板橋校

###### ②青年経営研究会 (JPO)

3月8日 役員会

##### (3) 製品技術部会

#### (4) 全日本プラ連合会

4月25日 経産省との特定技能打合せ

協会事務所

5月15日 第28回情報交換会

ANA クラウンプラザグランコート名古屋

以上議題1について諮ったところ特に異議なく了承された。

#### 議題2. 会員の入会・退会承認の件

以下専務理事から説明を行った。

##### (1) 入会の部

なし

##### (2) 退会の部

正会員 1社

会社名 (株)マルワ

退会理由 会社都合

##### (3) 会員の増減

	正会員	賛助会員	計	団体会員
前 回	159社	69社	228社	7団体
増 加	0社	0社	0社	0
減 少	1社	0社	1社	0
現 在	158社	69社	227社	7団体

以上議題2について諮ったところ特に異議なく了承された。

#### 議題3. 本日の通常総会の件

以下専務理事から説明を行った。

・出席状況

・本日のスケジュールと役割分担

以上議題3について諮ったところ特に異議なく了承された。

#### 【その他報告事項】

以下の項目につき専務理事から説明を行った。

##### ①経済産業省からの情報

・約束手形等の交付から満期日までの期間の短縮の要請

・経済産業税制総合 Web ページの紹介

##### ②特定技能の件

対象分野追加の方針案(出入国在留管理庁)

以上その他報告事項について、異議なく了承された。

以上予定議案が終了し、議長は15時40分、閉会を宣した。

## 火力発電の二酸化炭素排出削減

SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）は誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標である。

世界の環境関連委員会や会議において、地球温暖化のおもな原因とされる二酸化炭素排出におおきな影響を及ぼす火力発電は、目の敵にされている感がある。

日本では火力発電の比率は7割以上を占める最もポピュラーな発電方式であり、天候などに左右される再生可能エネルギーの発電量をおぎなう「調整力」ももっている。

現在、日本では二酸化炭素の発生を減らす火力発電方法について各種の開発が行われている。

以下にNEDO新エネルギー・産業技術総合開発機構が、事業期間：2016年度～2026年度、予算額：191億円で取組む開発を紹介する。

本事業では、大幅なCO<sub>2</sub>の排出削減に寄与するCO<sub>2</sub>フリー燃料（バイオマス、アンモニア等）を用いた発電技術、再生可能エネルギーの大量導入時の系統安定化のための負荷変動対応発電技術等、革新的な次世代火力発電技術に取り組んでいる。

また、排出されるCO<sub>2</sub>を低コストで分離・回収する技術、そのCO<sub>2</sub>を資源としたカーボンリサイクル技術開発を推進している。

・・・その詳細は以下の8項目である。

### (1) 石炭ガス化燃料電池複合発電技術開発

火力発電から排出されるCO<sub>2</sub>大幅削減のため、CO<sub>2</sub>分離・回収型石炭ガス化燃料電池複合発電における技術開発として、バイオマス燃料混合のためのガス化技術開発やCO<sub>2</sub>分離・回収設備の負荷変動に対応するガスタービン要素技術開発。

### (2) アンモニア混焼火力発電技術開発

火力発電の燃料にアンモニアを利用する技術の確立を目的として、火力発電への燃料アンモニアの導入に向けた各種調査及びアンモニアを石炭と混焼させる技術開発、並びに商用の石炭火力発電設備におけるアンモニア混焼技術の実証研究。

### (3) 火力発電負荷変動対応技術開発

再生可能エネルギーの大量導入による瞬時的・継続的な発電電力量の低下を支える機動性に優れ、低負荷での効率向上を目指したガスタービン

複合発電の技術開発、また、石炭火力発電については、過度な負荷変動対応運転に向けた故障予知・寿命予測等の保守技術開発や最低負荷引き下げ技術。

### (4) CO<sub>2</sub>分離・回収型ポリジェネレーションシステム

バイオマスや廃棄物を原料として、CO<sub>2</sub>を分離・回収すると共に、電力と化学物質等の有価物を併産することを特徴とするCO<sub>2</sub>分離・回収型ポリジェネレーションシステムの技術開発。

### (5) 石炭利用環境対策

石炭利用に伴い発生する環境への負荷を低減するため、石炭等の燃焼灰の利用用途拡大及び削減に係る技術開発、また、石炭等の自然発熱要因解明に関する技術開発。

### (6) CO<sub>2</sub>分離・回収技術の研究開発

CO<sub>2</sub>分離・回収技術は、CO<sub>2</sub>排出源とCO<sub>2</sub>利用先に応じて適切な方法を選択することが重要となり、省エネルギー・低コストが期待できるCO<sub>2</sub>分離・回収法である固体吸収法及び膜分離法についての素材開発、プロセス開発、実証試験。

### (7) CO<sub>2</sub>有効利用拠点における技術開発

CO<sub>2</sub>を資源として有効利用するカーボンリサイクル技術の早期実用化に向け、大崎上島の中国電力（株）大崎発電所内にカーボンリサイクル実証研究拠点を整備し、さまざまなカーボンリサイクル技術の研究開発。

### (8) CO<sub>2</sub>排出削減・有効利用実用化技術開発

カーボンリサイクルロードマップに基づき、大気中へのCO<sub>2</sub>排出を抑制するため、CO<sub>2</sub>から化学品・液体燃料・気体燃料を合成する技術や、コンクリート、セメント、炭酸塩、炭素、炭化物に固定化する技術に係る研究開発、また、環境負荷低減を図る次世代火力を対象として、経済性、CO<sub>2</sub>削減効果等についての調査・研究。

出展：最終更新日2024年3月12日 新エネルギー・産業技術総合開発機構「カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発」

(案山子)

金型保管にお困りのメーカー様へ朗報！！

金型保管と言えば

# 金型ロッカー

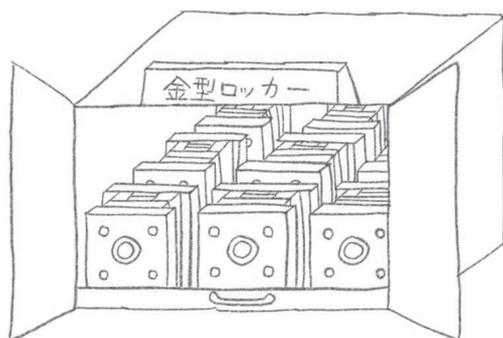
金型を収納できる屋内の重量物専用レンタルスペースです！

○ 利用例

- ・ 引上げ金型や長期保管用の金型置場として
- ・ 下請法対策のため協力工場様向けの金型置場として

○ 条 件

- ・ 1区画：縦1列3段（上段・中段・下段）
- ・ 各 段：幅1,100 mm×奥行1,100 mm×高450 mm、耐荷重3,000 kg
- ・ 各段ごとに施錠可能



【 運営元 】 お問い合わせは、QRコード or メールからお願いいたします



日本成型産業株式会社（担当：山本）

専用サイト : <https://kanagata-locker.com/>

メール : [info@kanagata-locker.com](mailto:info@kanagata-locker.com)

金型ロッカー：圏央道・狭山日高IC（埼玉県狭山市）から車で約10分

